

労災疾病等医学研究・開発、普及事業
に係る研究・開発計画書

分野：労災保険給付に係る決定等の迅速・適正化

じん肺の研究・開発、普及

北海道中央労災病院

大塚 義紀

研究テーマ

1. じん肺患者における膠原病、腎症 特にANCA
関連腎疾患の合併頻度に関する調査研究
2. じん肺ハンドブックの作成に関する研究・開発
3. じん肺続発性気管支炎の診断、治療法に関する研究

研究組織

研究統括責任者

北海道中央労災病院 院長 宮本 顕二

実施責任者

北海道中央労災病院 副院長 大塚 義紀

実施分担者

旭労災病院職名 副院長 宇佐美郁治

富山労災病院アスベスト疾患センター

センター長 水橋 啓一

岡山労災病院 副院長 岸本 卓巳

神戸労災病院 呼吸器内科部長 坂本 浩一

北海道中央労災病院 名誉院長 木村 清延

1. じん肺患者における膠原病、腎症特にANCA関連腎疾患の合併頻度に関する調査研究



背景

- 従来からじん肺患者でリウマチをはじめとする膠原病の合併がみられる。
- 最近ではANCA関連腎疾患の合併がシリカばく露患者で数多く報告されている。
- 今後のじん肺診療における膠原病の取り扱いを考えるために、まずはANCA関連腎疾患の合併をはじめとした膠原病の実態調査が必要。

目的

(前向き研究)

じん肺診療を行っている主な労災病院にて前向きに2年間、検尿と血清検査にてANCA関連腎疾患の調査を行う。

(後ろ向き研究)

全国の労災病院からじん肺に合併した膠原病のアンケートを行い、症例の回収・集積を行う。

意義

- 本邦における施設共同での実態調査報告はなく、合併頻度は明らかにされていない。
- 今回の調査結果が、ANCA関連疾患をじん肺の合併症として取り扱うべきかどうかの判断材料に資することが期待される。
- じん肺に合併する他の膠原病の種類・頻度を把握することも期待される。

方法 1

(前向き研究)

(対象)

研究協力労災病院に通院・定期受診中のじん肺患者400名。対照者は年齢および性をマッチさせた粉じん吸入のない健常ボランティア200名。

(方法)

対象者に書面にての同意書取得後、検尿、採血を行う。検査終了者におけるANCA関連腎疾患の合併頻度、ならびに対照群との比較を行う。

方法 2

(後ろ向き研究)

研究協力労災病院にて既に診断されたじん肺に合併したANCA関連疾患を合併したじん肺症ならびに膠原病合併患者の収集と伴に、全国の労災病院にもアンケートを発送し、症例の回収、集積を行う。

2. じん肺ハンドブック作成に関する研究・開発



背景

- じん肺診査において、肺機能検査異常の判定基準が日本人のデータを元にした改訂や、じん肺の認定基準がいくつか変更されてきている。
- 産業医学振興財団のハンドブック追録版が平成23年度に発刊以降も、デジタル版のじん肺標準写真が上梓され、更に石綿関連肺疾患の認定基準が追加された。
- 種々の知見や改正点が掲載されたハンドブックが実地医家に望まれている。

目 的

じん肺ハンドブックの改訂第3版の作成を行う。

対象と方法

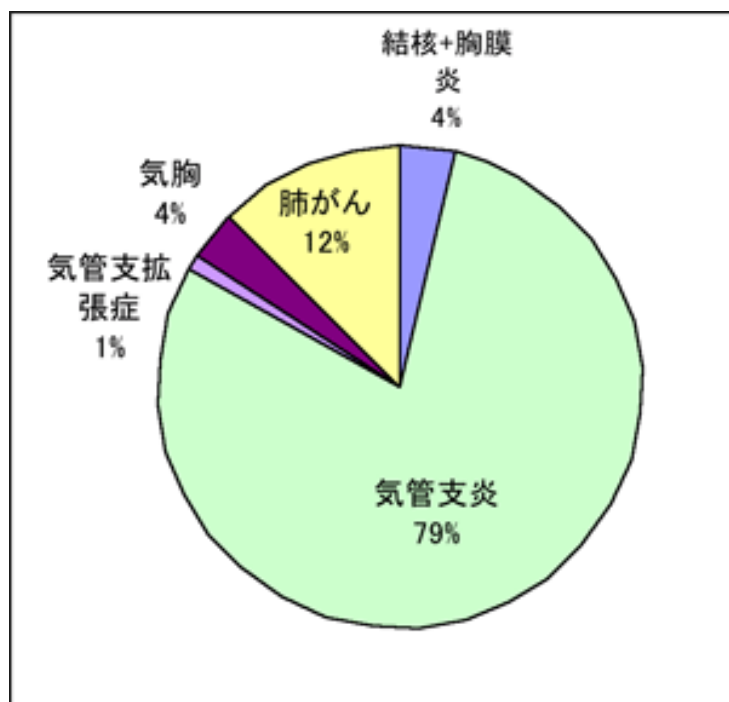
(対象)

平成20年発刊産業医学振興財団ハンドブックⅣ「じん肺」、および平成23年3月出版された追録版

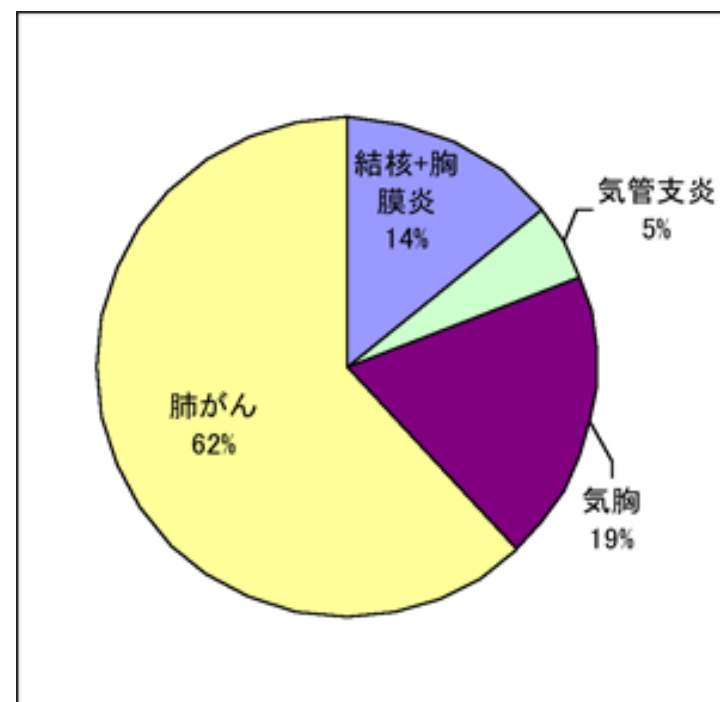
(方法)

- ・項目は産業医学振興財団ハンドブックⅣ「じん肺」をもとに作成。
- ・項目の選定後、各々の項目の分担執筆者を決定し、原稿を依頼。
- ・石綿肺癌の診断基準の改正点、平成23年3月出版された追録版の本文への取り込み、デジタル版じん肺標準写真の掲載など第2版が出版された以降の診断基準、最近の知見などを入れて出版する

3. じん肺続発性気管支炎の診断、治療法に関する研究



平成20年度全国じん肺合併症比率



平成20年度当院じん肺合併症比率

背景

- ・じん肺続発性気管支炎(以下「続気」)はじん肺の合併症の一つであり、じん肺に合併した感染症である。
- ・平成20年から22年に調査した労災病院群において、「続気」の頻度は合併症全体の9.8%と少ないが、全国の「続気」の割合は合併症全体76.1%を占めるなど、開きが大きい。
- ・前回13分野研究では、「続気」に非結核性抗酸菌感染症の頻度が多いことを明らかにした。

目的

労災病院群で「続気」をどのように診断し治療しているかを調査し、診療実録集を作成して実地医家の参考に資する。

意義

診断基準をもとに、Miller & Jones分類でP1以上の膿性痰が3ヶ月間以上にわたって見られたものを「続気」と診断。

労災病院群での診断、治療の実態を示すことは、他の診療医に診療の指針となり役立つものと考ええる。

今後新たに診断される「続気」の診断・治療の指標となる診療実録集を作成することを目的にする。

方法


(対象)

協力病院にて現在または既に、「続気」または続発性気管支拡張症と診断されている症例を集積する。

(方法)

診断根拠、その後の治療経過、経過中のX-P、CTを揃えて症例データを解析する。

典型例集をつくって実臨床の指針作成をめざす。



働く人たちや地域の皆さんへの
ぬくもりのある最善の医療を目指します。



日本医療機能評価機構 認定病院
(一般病院：認定第JC1568号)